

2024 年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園おおいまち

保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

保育目標



共感性

自分の気持ちを大切にし
他者の気持ちも大切にする
こども



内発性

自らの内なる声を聴き
主体的に動くこども



創造性

自由に考え
創造することも

シチズンシップ保育 5つの基本



1, 活動のテーマ

＜テーマ（こどもたちの興味・関心を深める）＞

深海に住む生き物、深海そのもの

＜テーマの設定理由（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）＞

品川区は海が近い、園の近くに水族館がある。
海の生き物が好きな園児から他児にも興味が広がる
「どんな生き物がいるの?」「どんなところなの?」

2, 活動スケジュール

- ・ 深海に住む生き物の本にふれながら、保育士や友だちといっしょに種類や特性を語り合う。
- ・ ポスターを見ながら児の感じたことを言葉で伝える→どういうことをしたいか、興味がどこにあるかをさらに深ぼる
- ・ 実際に海の生き物を作品で表現してみる（おえかき、粘土遊びなど）
- ・ 海の生きものを実際にさわってみる（タコやイカ、魚など）
- ・ 海（深海）を見ることができる場所に行く（しながわ水族館への遠足）
- ・ 海（深海）を体験してみよう（室内で暗さを体験してみる）

【実践記録】

日付	2024/10/15
「問い」	書籍やポスターを通して「大きさ」「色」「自身の環境との比較」を問う
環境のデザイン	・図鑑、ポスター ・園内壁面に海中を再現（ビニールなどを使用） ・保育者によるダイオウイカの壁面作品（画用紙などを使用）
探究活動	・思い思いに図鑑を選び、「これはねー〇〇なんだよ」という児の言葉に他児も「じゃあこれは？」と問う。 - 正解、不正解というより、会話を楽しみながら図鑑を見ている。 - 図鑑のカバーに関連する書籍があると「これも見たい！」と他の書籍にはどんな情報があるのか、と興味を深める姿がある。 ・比較的、興味が薄いのではないと思われる児も「〇〇みたい」と見立ての言葉や「～ちゃんの好きなピンク色だね」と声をかけるとその色の生き物を探し始めたりする。 ・「海の深いところは暗いんだって」と声がけすると午睡時に「ここのお部屋は海の中みたいだねー」と話す児もいた。
活動の様子	 
振り返り	・そもそものテーマは「深海にすむ生き物」だったが、当然のことながら実際に見る機会はないので、どうしても図鑑やポスターからの導入になってしまった。が、そこから他の種類の図鑑や生き物へ興味が広がり、「図鑑をみる」ことがそれぞれ楽しみや興味につながってきている。 ・「深海生物」への興味が強い児、そうでない児もいるが、アプローチによりそれぞれが興味を持っている。 「大きさ」「形」の概念の基礎を知ったり、「色」への興味が深まる児もいた。 「イカのピンクー！」（←実際はピンクではないが、ピンク色に描いた絵本のイラストを見た児の発言） 「大きいもの」を表現するときに「ダイオウイカみたいに大きいね」「リュウグウノツカイみたいに長いね」など。 ・0～2歳児の特性上、一つのテーマを掘り下げるには限界があるが、そこから他視点への興味の広がりやむしろ大きいと感じた。（「深さ」より「広がり」というイメージ） ・話がそれたり、興味が別のものであると思っても無理に「深海」に戻さず、児のその時の興味を大切にしたいとも感じる。

日付	2024/12/19
「問い」	(お絵かき、粘土などの作品を通して自由な表現活動を促しながら)「どんな形してるかな」「どんな大きさかな」「どうしたらこんな形になるのかな」「何色だと思う？」
環境のデザイン	画用紙、絵の具、クレヨン、マジックなど粘土、
探究活動	「〇〇つくる！」と目的を持って取り組む児、目的から気持ちがかわる児、「カニ描いて」と保育者が提示するテーマに沿ってお絵かきを楽しむ児など様々。もともと、創作活動を好む・好まない児によって取り組みへの興味の深度は違うものの、様々なアプローチを試みた。 友だちどうしで「これ〇〇！」と見せ合う楽しさ、2歳児が楽しむ姿を見て真似をしたがる1歳児など様々。 スタッフは「上手にできたね」という言葉よりも「〇〇なんだね」とそのものを認めるにとどめるよう心がけた。
活動の様子	
振り返り	・ 目的としては「海の生き物を作ってみよう」ではあるが、年齢の特性上、決まった作品を作るということには限界があるため、一応のテーマを伝えつつ、「自身の中で思い浮かべるものを再現して楽しむ」「作ろうと思っていたものから興味の方向性が違ったが、創作活動の楽しさを味わっている」ところを観察した。 ・ 粘土遊びは海の生き物の再現にかかわらず、特に2歳児の間でブームが続いた。 ・ 引き続き、図鑑や絵本などを通しての探求活動は続いている。その中で「たくさん」「〇匹」「〇メートル」など数への興味、また「いかの”い”！」など文字への関心も出てきている児もいるので今後の活動に少しずつ盛り込んでいければと思っている。

日付	2025/1/31
「問い」	「海の生き物ってさわったらどんな感じ？」 「生き物のお腹の中ってどうなってるのかな？」 「お水の中では生きていたけど、今は動かないね」
環境のデザイン	・ヤリイカ、アジ（タコを用意したかったが調達不可）、はまぐり、サザエなどの貝殻調理用品（イカはワタをとり、アジは三枚おろし） ・手袋などの衛生用品（ナマモノを触るため・保護者への許可は事前にとった） ・実際に海中を泳ぐ姿を見るための映像
探究活動	・実際のイカやアジをそのままの姿を観察後、実際に海中ではどのように泳いでいるのか、などを図鑑で見たり、動画を視聴する。最初は恐る恐る触れていた児も他児が積極的に触る様子を見て問題なく触ったりしていた。 0才児や感覚過敏な児は嫌がる様子もあり、その場から離れる場面も。 その後、スタッフが包丁を用いてイカやアジの内蔵を見せると声も出せず真剣に見つめる児、顔を手で覆うなどする児もいて反応は様々。 血を見て「痛くない？」と声をかける児もいた。 イカの墨袋から墨を出して触てみると「黒い・・・」と墨=黒いものの実感を得た表情だった
活動の様子	
振り返り	・イカやタコを触ることは事前に伝えていた。血が出たり調理する様子を見て泣いたり怖がる児がいるのではないかなと思っていましたが、1，2歳児の参加した児は全員真剣な表情を見せていた。（特別なことが苦手な児は別室で待機していた。） ・調理した後の内蔵をつついてみたり、墨袋から出た墨を実際にさわったり、目をくりぬいた後もさわっていた様子を見て案外さわれるのだなと思った。 ・血が出ているのを見て「痛くないのかな」と発言した児は自身がケガをしたときの経験を思い出しているのかなと思った。 ・用意したイカは2はいだったが「2ひきいるね」と数を数えられる児もいる。

日付	2025/2/19
「問い」	「実際にイカやタコ、海中で泳ぐ様子がわかる場所は？」「水族館ってどんな感じかな？」「どんな大きさかな？」
環境のデザイン	園外活動（2歳児「しながわ水族館」遠足）
探究活動	実際に泳ぐ様子を友だちや先生といっしょに観察する。「水族館」という施設に初めて行く児もあり、実際に泳ぐ姿に目を奪われる児もいた。 群れになっている様子を「お友達かな」と自分たちの様子に見立てて表現する児もいた。 じっと観察をする児にはあまり声をかけることはせず、没頭できるようにした。 「水族館に遠足」というところで2歳児のみの活動であるが、まだ施設において、テーマに沿った観察ができるわけではないので、水中で魚が泳ぐ様子、魚だけではなく、海の中には様々なものが存在し（海藻等も含め）食べる、排泄するなどの営みは自分たちと同じであることを伝えた。
活動の様子	 
振り返り	・動画の視聴は何度かあったが、実際に大きな水槽を泳ぐ生き物を見たことは大きな刺激になったと思う。 「この前の魚よりおーきかった！！」「1, 2, 3, 4・・・たくさんいたよ」と数を用いて表現する児が増えた。写真は足の本数を数えている様子。まだ単位までの理解はないが「（自分は）足は2本！」という児もいた。 - 数字への興味に伴い、文字への関心を持つ児もいる（2歳児）。 ・自分たちの知識を他児に伝えようとする力が育っている。同じクラスの友だちとはともに会話を通して見たもの、聞いたものを伝え合い、魚や海の生き物がでてくる絵本を0才児に読み聞かせをしようとする。 ・「2歳児が〇〇ちゃん（0才児）はどのお魚が好きかな～」と保育者に聞いてみる→「聞いてみたら？」→「〇〇ちゃん、どれがいい？」と反応を楽しんでいる。 ・明暗に言及することもあった。「くらい～！」「海の中みたい（←絵本や動画を見ているので、その経験からの言葉）」

日付	2025/3/14
「問い」	「深海を探検してみよう」 ・水族館と同じくらいの明るさ？ ・海中で光る魚もいるね？ ・「深い」ってどういうこと？
環境のデザイン	・室内装飾（青や黒のビニールで部屋全体を覆う。海藻をつける。 ・深海にいる魚を作る（ダイオウイカ、リュウグウノツカイなどを画用紙、蛍光塗料などを使用） ・深海探検をテーマにした絵本「しんかいたんけんマリンスノー」を読み聞かせに使用し、段ボールでマリンスノー号を2歳児と制作活動し、それに乗って行くという設定。
探究活動	・できるだけ真っ暗の状態を再現したので、最初は室内に入るのを怖がる様子も見せたが、プロジェクターで深海の様子を映し出したので、「ほんとに海の中みたいだ」という感想を話す児もいた。自分たちで作成した深海魚を友だちや保育者に「〇〇だよ！」と伝え合う場面もあった。 ・「暗いから体が光る魚も多いよ」と保育者が蛍光塗料を塗った魚にUVライトを当てながら楽しむ様子も見られた。 ・0歳児クラスの子も「深海」の理解はできないが、魚の制作活動に参加したり、室内の様子に興味深そうに見ていた。
活動の様子	
振り返り	・ほぼ1年を通して「深海」をテーマにしてきたが、「魚」をはじめとして「海の生物」「深海という場所そのもの」に着地したと感じる。1つ1つの深掘りは月齢的に難しい場面はあったものの、絵を描く、粘度で形を作ってみるなどへの興味が広がった。 ・実際に行くのは難しい場所であるし、見るものは水族館などなので、図鑑や絵本を見る機会が非常に多かった。大きさや深さなどの理解、明るい・暗い、冷たい、温かいなどの感覚を知る機会も得た。文字を読もうとすること、数を数えようとする児もいた。2歳児クラスの後半では自身の興味が友だちになんとか伝えようとして、コミュニケーションをとったり、「〇〇くんは知ってるね」など、友だちの興味・関心に気づいたりする児もいた。 「深海を知る」とは少し違ったアプローチにもなったが、0、1歳児も活動の中で様々な機会を得ることができたように思う。